

「できることをやろう」

マルコによる福音書 14章3～8節

聖学院中学校高等学校 チャプレン 井本 晴雄

南米のアンデス地方に昔から伝えられる話があります。短いお話しです。

森が燃えていました
森の生きものたちは われ先にと 逃げて いました
でもクリキンディという名の
ハチドリだけは いったりきたり
口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは
火の上に落としていきます
動物たちがそれを見て
「そんなことをして いったい何になるんだ」
といて笑います
クリキンディはこう答えました
「私は、私にできることをしているだけ」

南米エクアドルに伝わる小さなハチドリの物語です。山火事になって、ほかの大きな動物たちが我先にと逃げ出す中、そのハチドリは、たった一羽で、その小さなくちばしで水滴を運んでは消火活動に励んでいたというのです。「そんなことをして何になる？」と笑う動物たちにクリキンディはこう返事をします。

「私は、私にできることをしているだけ。」

みなさんはこの話を聞いてどう思うでしょうか。このハチドリは間違えているのでしょうか。いえ、正しいです。まったく正しいです。周りがばかげていると言ったとしても、正しいことを行おうとしています。

先ほどの聖書に登場する女性はどうだったでしょうか。この出来事は十字架の前、受難週の水曜日の夜のことだったと言われます。今週は受難週ですから、明日の水曜日がこの出来事があった日にあたります。翌日木曜日にイエスは捕えられ、金曜日に十字架に架かりました。ですからこれは十字架につく直前の出来事であったのです。

ある女性が純粹で、非常に高価なナルドの香油を持ってきた。そして、それをイエス・キリストに捧

げようとしたということです。当時の高価な油は、密閉した状態で保存されていたので、壺を壊さないと油を使うことができませんでした。つまり、一度開けたら使い切らないといけないうことです。その覚悟をもって、この女性は自分が大切に持っていた油をすべてキリストに捧げるためにやってきたのです。この油は、売ったら300デナリオン以上になると言います。1デナリオンは一日の賃金ですから、300デナリオンと言ったら年収ですね。一年分の給与と同じくらい高価な香油、油です。注目したいことは8節の「この人はできるかぎりのことをした」ということばです。

高価な油、しかしこの女性がしたこと世界は変わったでしょうか。この女性が油を注いだことでキリストの十字架は回避されたでしょうか。そんなことはありません。世の中が変わったわけでも、イエスの人生が変わったわけでもありません。でも彼女は、彼女にできることを精一杯やったということです。

わたしたちは、こんなことをしたって意味ないと思うこととか、こんなことをして何になるのと思うことをやらないのではないのでしょうか。例えば地球温暖化問題について、無駄な電気を消そうとか、レジ袋一枚でももらわなければ、その分レジ袋を作るためのエネルギーが節約できるとか、なかなかやらないのではないのでしょうか。そんなことをしたって何の意味もないと思うことはやらないのではないのでしょうか。

この女性がしたことは、世界を変えることにはならなかったかも知れない。でも、彼女にできる最高の、そして最善のことをやった。それはキリストの十字架と葬りへの備えだったのです。わたしたちがキリストのために、神のためにできることは、そのことが、周りから見てもどれほどばかばかしいことであっても、正しいこと、良いことを行っていこうではありませんか。できるかぎりのことをやろうではありませんか。

わたしたちにとって、あなたにとって正しいこと、そして良いことは、どんなことでしょうか。ぜひ、それをやる、勇気を持っていただきたいと思います。

森が燃えていました

森の生きものたちは われ先にと 逃げて いました

でもクリキンディという名の

ハチドリだけは いったりきたり

口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは

火の上に落としていきます

動物たちがそれを見て

「そんなことをして いったい何になるんだ」

といって笑います

クリキンディはこう答えました

「私は、私にできることをしているだけ」

2014年4月15日 聖学院中学校高等学校 全校礼拝